

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

2024年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2024/05/10 現在

科目 I

（証券分析とポートフォリオ・マネジメント）

第1問（30点）

I

問1 D 問2 C 問3 D 問4 B 問5 A 問6 C 問7 C 問8 A
問9 B 問10 B

II

問1 C 問2 C 問3 B 問4 B 問5 D

III

問1 D 問2 D 問3 C 問4 A 問5 D

第2問（30点）

I

問1 A 問2 C 問3 B 問4 D 問5 B

II

問1 C 問2 A 問3 A 問4 B 問5 D

III

問1 E 問2 D 問3 E 問4 A 問5 C

第3問（30点）

I

問1 C 問2 B 問3 A 問4 A 問5 B

II

問1 C 問2 D 問3 D 問4 C 問5 B

III

問1 E 問2 B 問3 E 問4 C 問5 D

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第4問 (30点)

I

問1 A 問2 D 問3 A 問4 B 問5 B

II

問1 B 問2 E 問3 D 問4 A 問5 B

III

問1 D 問2 E 問3 C 問4 C 問5 D

第5問 (30点)

I

問1 D 問2 C 問3 A 問4 C 問5 B

II

問1 C 問2 A 問3 E 問4 D 問5 C

III

問1 D 問2 B 問3 D 問4 B 問5 A

第6問 (20点)

I

問1 B 問2 A 問3 C 問4 D 問5 B

II

問1 A 問2 A 問3 B 問4 C 問5 A

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2024年（春）証券アナリスト1次試験

科目Ⅰ：証券分析とポートフォリオ・マネジメント

ここ4回の問題数・配点は以下の通り。

問題	分野	2022年 (秋)		2023年 (春)		2023年 (秋)		2024年 (春)	
		10問	30点	10問	30点	10問	30点	10問	30点
第1問	日本の株式市場・株式取引	10問	30点	10問	30点	10問	30点	10問	30点
	企業のファンダメンタル分析	10問		10問		10問		10問	
第2問	株式分析	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第3問	債券分析	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第4問	デリバティブ分析	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第5問	現代ポートフォリオ理論	15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)		15問 (30点)	
第6問	ポートフォリオ・マネジメント	10問 (20点)		10問 (20点)		10問 (20点)		10問 (20点)	
合計		90問 (170点)		90問 (170点)		90問 (170点)		90問 (170点)	

制度改定後、形式は5回とも全く同じ。正誤問題は仔細を熟知していなくても常識で判断できるものが多い。計算問題については非常に簡単な問題と、複雑な条件設定や題意を読み取りにくい問題が混在しているものの、計算そのものはやさしくなっている。

第1問「Ⅰ：日本の証券市場・株式取引」「Ⅱ・Ⅲ：企業のファンダメンタル分析」：ほぼすべて正誤問題。ごく一部を除き、大半は常識で処理できるだろう。

第2問「株式分析」：前回（2023年・秋）に比べて素直な問題が多くなっているが、相変わらずちょっとしたミスを誘発しやすい。選択式なので注意が必要だ。

第3問「債券分析」：前回に比べて計算処理に手間取る問題は減り、いくらか切り口の異なる問題が出てきた。Ⅲの間3・間4はスポットレートとフォワードレートに関する正誤問題ながら、けっこう「捻り」が効いていて即答は難しいだろう。

第4問「デリバティブ分析」：増加傾向にあった複雑なオプション戦略の問題が減る一方、Ⅲがすべて金利系デリバティブの問題となり、大幅に増加した。同じデリバティブとは言え、金利系の問題は株価指数系とかなり「タッチ」が異なる。今後、要注意かもしれない。

第5問「現代ポートフォリオ理論」：Ⅰの正誤問題は総じてやさしいものの、間3・間5あたりは正確な理解が必要だろう。Ⅱの間4は計算結果を前提とした投資家のリスク選好に関する正誤問題で、定義・意味を理解していないと難しいかもしれない。Ⅲはこれまで同様、マルチファクター・モデル。1次レベルでもこの分野の出題が完全に定着した。

第6問「ポートフォリオ・マネジメント」：正誤問題は比較的やさしいとは言え、旧制度の試験では問われなかった論点ばかりなので、非常にやりにくい分野だろう。Ⅱの間2はビルディング・ブロック法の計算問題で、1次レベルでは今回が初出。